

会議開催記録

会議名	第3回 森町総合計画審議会
日 時	平成28年10月24日（月）13：30～
場 所	森町町民生活センター 2階集会室
出席者	町長、副町長、審議会委員20名、まちづくり検討会委員1名、事務局4名 欠席委員3名（熊王委員、萩原委員、増田委員）
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 町長あいさつ 3 会長あいさつ 4 委嘱状交付 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) まちづくり検討会からの提案について【資料1】 (2) 町長と語る会の概要報告について【資料2】 (3) 総合計画基本構想及び基本計画について【資料3】 (4) その他 6 閉会
議事要旨	<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>町 長： 本日はお忙しい所、第3回の審議会にご出席いただき感謝します。第9次計画の策定状況ですが、まず、町民代表者15名で構成された「まちづくり検討会」、この開催が10月までに延べ8回にわたり行われ、先ほど町長室にて「意見・提案」のまとめをいただきました。本審議会でも、この後、発表の場を持ちますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>また、住民の方々の「生の声」をいただく機会として、8月から9月には「町長と語る会」が、全6地区、約400名の参加を得て行われました。限られた時間の中でしたが有意義な意見交換となり感謝いたします。頂いたご意見・ご要望は、役場の全職員に記録の配信と、今度の総合計画への反映も検討していくことになります。会の様子についても町広報への掲載を予定しています。</p> <p>前回（第2回）審議会開催後の動きとしましては、9月1日より、ふるさと納税システムをリニューアルし、スタートしました。10月現在までの累計412件、1,028万6千円のご寄付をいただいたところです。今後もふるさと納税を通じた町産物の出品・PRを図っていきたいと思います。さらに本年新たな取り組みとして、10月15・16日に、東京都江東区の「区民祭り」への出店を行い、森町より総勢20名で参加しました。2日間で44万人の来場で想像を超えた人手がありました。町の観光PR、特産品も大量に出品され、今後も継続的に、また他の都市にも参加していきたいと思います。その他にも、森の茶の販売会ということで、東京や札幌にも出向いたところでもあります。</p> <p>さて、本日の審議会ですが、まちづくり検討会での提案についての報告、町長と語る会での意見等の概要報告をいただき、その後に、第9次総合計画基本構想・基本計画の案につきまして、委員の皆様との意見交換を予定しています。この審議会は、総合計画策定にあたっての私からの諮問機関として位置づけられています。引き続き委員それぞれのお立場から忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。</p>

3 会長あいさつ

会 長： 大変秋めいてまいりました。町特産の次郎柿も大変色付きがよく、遠くからも眺めることができるようになりました。また新たなる特産品、レタス等の植え付けも盛んにおこなわれているようであります。この先の好天と町の特産品が順調に、より充実するように願いつつ、今、町長のご挨拶にもあったように、今回から非常に大事なところとなります。委員皆さんのお立場で、よく森町の行く末を考えながら、忌憚のないご意見をお願いしたいと思えます。

4 委嘱状交付

- ・新たに「まちづくり検討会」から2名（白澤委員、松下委員）委嘱

5 議事

- ・審議会名簿の更新と森町総合計画策定条例について（確認）
- ・前回（第2回）森町総合計画審議会開催記録について（確認）

（1）まちづくり検討会からの提案について

- ・資料1について事務局より説明
- ・まちづくり検討会Bグループ、松下委員より報告
- ・まちづくり検討会Aグループ、白澤委員、石田さんより報告

（審議）

会 長： 是非この場での確認点などあれば、お受けしたいと思います。

委 員： 森町の人口減少に対して歯止めをかけていくためには、P18にある提案の5番目、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、ということが大事ではないでしょうか。内容はP22に記載がありますが、祝い金（金額設定）などについて何か根拠はあるのでしょうか。

委 員： 意見・提案書（資料1）のP18以降の内容は、有志メンバー個人の提案集としてあって、意見の確認の場に提案者本人が不在だったので、根拠の説明は受けていないところですが、提案者本人は普段から人口問題についてよく考えられていて、森町から外へ出ないように、また、出て行ったとしてもまた帰って来られるように、という趣旨のご提案だと思います。

委 員： 人口減少対策ということで他の自治体の事例としては、岡山だったと思いますが、段階的に出産祝金を出すとか、入学の補助などを行っています。資料があったらまた後に提出したいと思います。

委 員： 隠岐の島の海士町では第4子出産から100万円（祝金）だそうです。

委 員： 現在森町では、お子さんが生まれた毎に10万円出ていると思います。10年程前からでし

ようか。

会 長： お祝い金のような形で出ていると思います。

委 員： （森町でも）折角出してくれているなら、もっと PR をするべきではないでしょうか。そうすればもっと若い人達も「帰ってきたい」と思ってくれるかもしれません。現在、個人としては結婚相談に関わらせてもらっていますが、結婚すると掛川とか袋井市に出て行ってしまいます。森町に居てくれる人を是非増やして欲しいと思います。

会 長： 森町には既にそのようなお祝い制度があるのに、この PR がまだ足りないという面と、中身についてもこの提案にあるようにもう少し検討すべきではないかと捉えています。委員の皆さんもどのように考えるか、これからの問題ですので、ひとつ宜しくお願い致します。

委 員： 商工会で婚活活動などもしていますが、未だに結婚へのハードルも高いと思っています。50代の独身者も見られます。袋井などに出て行ってしまいうということですが、では何故森町に住んでももらえないのか、それは当然仕事の関係（仕事が無い）が大きいのだと思います。以前に、東京の方で若い層にアンケートをとったことがあります。中でも、お祭りが盛んなところは行きたくないという回答が多かったのが印象的でした。

委 員： 近所でも若い人が住んでいたことがありますが、「お祭り」の事で行き違いがあって、町外へ出て行ってしまったこともあります。その辺りは考えなくてはいけない問題だと感じています。

会 長： その地域に、先ず溶け込むということが大事なのでしょう。他に何かございますか。

委 員： 飯田地区では毎年7月に祇園をやっています。8つの町内会がありますが、若い人の少ない町内会が多くなってきたと思います。もはや青年会だけでは運営が難しくなっており、若者の定着がありません。定例のもりもり2万人まつりがありますが、もはや2万人は居ません。名称も変えるべきではないでしょうか。ところで、まちづくり検討会のメンバーは、全員森町の方ですか。他地区の方がいるのなら是非森町に住んで頂きたいところです。（空き家調査の結果で最優先するなど）

とにかく、町は人口減少が進んでいますが、如何に歯止めを掛け、衰退を留めるかが一番大きな問題です。先程ご指摘の働く場所の少なさもありますので、企業誘致など進めていただけるとありがたいところです。（するとすれば、飯田のような南の地区）

とにかく、森町の良さをもっと外部へ発信することが大事ではないでしょうか、そこで来て、見て、交わって、住んでいただいて、少しでも活性化された森町になっていくようお願いしたいです。

委 員： まちづくり検討会のような会はメンバーの半分位は外部の方のほうが良かったのではないのでしょうか。

委員： 本日出席のメンバー（３名）は全員元々は他地区なのです。

委員： 外から森町を見て頂いた方がいいのです。これ以前にも、このような会議はあったのですが、どうしても内容は似てしまうものです。例えば案内看板を増やすといったこと。以前から出ていますがいまだに増えていません。他所の観光地なら邪魔だと思えるくらい看板があります。

会長： 今のお気持ちを大事に、これから観光協会としても頑張っていただきたいところです。

委員： いま、飯田地区のお話をいただきましたが、睦実の話をさせていただくと、子供がまだ多く居ます。その子供たちがこれから家を建てようかという年代になっています。しかしそう思うと森町には家を建てる土地がなく、出ていってしまうという状況があります。そこできちっと住宅地が整備されれば、すぐ入ることができます。

もうひとつ、看板が無いというお話ですが、第８次計画の際の議論と、今回の議論の大きな違いは「情報（PR）」の重要性だと思っています。是非この場の議論にも取り上げて頂きたい。

会長： 今のご意見は大変重要なことだと思います。IT産業というのも元々こういう考えから来ていると思います。土地の問題もこの１０数年来解決できない問題だと思いますが、山梨地区のように開発できた例もあります。今後も大いに考えるべき課題でしょう。

それから先程婚活事業の話が出ましたが、中遠（３商工会）でもやっています。しかし男性は集まるが女性が集まらない。また、森独自の婚活事業（アクティ森）の予定がありますが、いずれもその後のフォローとして結婚して森町に住むとこんな特典がある、という所まで考える必要があるのではないのでしょうか。

委員： 資料１のＰ７、まちの認知度アップのためのPRという部分で、リプトンと共同開発して、お茶の産地をアピールするとありますが、自治体と民間企業と大学などによる「包括連携型協定」というものが静岡県内で広がりを見せています。地方創生を進めるための新しい形の地域貢献として期待が持てるものだと思います。今後視野に入れていってはどうでしょうか。

委員： こういった提案を熱い思いを込めて言っていただくこと、それはそれで素晴らしいことですが、行政の役割として、森町が今まで全くやったことがないことばかりでもありません。提案のひとつひとつは牌が大きいものもあります。この見方で５０万円渡せば人が来るのか、子供を産む気になるのか、という単純なものでもありません。そのところは行政のほうできちっと区分けしないと、現実を見ての地方創生ですので。行政全般の見方からして、今後、箱物というのはつくれません。あるいは以前のものを潰して何かをやらなくてはいけない。しかも箱物というのは維持管理の関係も将来に大きな影響を及ぼします。まちづくり検討会の意見でまとめたときに、雇用、結婚・子育て、人口増、地域づくりの４つの目的の中のど

こに入って、その問題について森町としてどこまでやってきたかがあって初めてこれらの提案が活きるものだと思います。そこがないと、ここで我々が評価すると言っても難しいと感じました。

それで、ITと情報というのはすごく大事なことです、情報の場合でもお金を掛けるという前にまずストーリーづくりが必要です。魅力があるものを如何にして集め、ストーリーを付けて価値を高めていくか、そういうようなものが提案として持っていけることが大事ですし、ITの場合もし企業の誘致ができるなら、今主流になりつつあるITを活かした配車サービスなどを扱うような企業を考えるべきでしょう。ただ、誘致された人が森町に来た時に他の町に行くよりも森町のほうが良いということをきちっと言わないといけません。

委員： 今回の検討会で追加があったのは、やはり第8次計画策定時と同じようなことを繰り返しているのではないかという指摘もあったところなので、今ご指摘のところは検討会のメンバーは認識しながら進めてきたところです。

会長： そういう中での意見から、さらに前に進むような提案を意識されているということですね。それでは次の議題をお願いしたいと思います。

（２）町長と語る会の概要報告について

・資料２について事務局より説明

（審議）

会長： それでは、お意見、ご質問がありましたらお願いします。

委員： 非常に町長が丁寧に回答なさっていて、素晴らしいことだと思います。ただ静岡県としても知事公聴会というところでやっていますが、一番気を付けているのは、要望合戦になるのではなく提案を求めるようにしていることです。私心は捨ていただき地域を良くする視点で発言していただくというような事です。そういうスタンスは森町にも非常によく合うと思います。これまでも、商工会といった団体等を通じてご意見をくださる方々もいらっしゃる訳で、町長が目の前に居るのでそこを私用されるようなことにならないよう注意すべきでしょう。今言われている一億総活躍社会というのは、本当にやる気のある人が、活躍できる社会だと思います。例えばある取り組みで苦勞された方がその成功談を語る、そのことを会場が共感して追随される方が出てくる、といったやり方もひとつあるのではないのでしょうか。

委員： 町長のご意向として、まず膝附談判をやりたいということがあり、あえてテーマを設けず、フリートークの形をとったという経緯はあります。もちろん団体や組織としてお願いをする場面もありますが、なかなか町長と直接お話する機会はないものですので、そこを配慮したというのはご理解いただければと思います。

委員： そのあたりも理解はしていますが、なかなか、このようなことに理解が至らない方も居

ることは注意するべきだということです。

会 長： その他のご意見は如何ですか。

委 員： 確認ですが、小規模多機能自治制度とはどんな制度でしょうか。

事務局： 森町で言えば、現在旧村単位の6地区がありますが、そういった地区ごとに拠点を形成して（小さな拠点）、地区ごとに異なるような課題の解決や行政サービスを実施していくことを進めるようにするため、それぞれに補助ができるような仕組みです。

委 員： 町長と語る会の場面ですが、飯田地区では、町長からの冒頭の説明などの様子をWEB上に動画配信させてもらいまして、ご覧になった方からコメントが帰って来たりしていました。役場もこうしたことを承知いただいたことで、変わってきているのではないかと考えています。

会 長： 各地区から様々な思いがあって、意見が出されております。要望などもありましたが、そこは行政にお任せいただくということで、この件についてはよろしいでしょうか。では次に進みたいと思います。

（３）総合計画基本構想及び基本計画について

・資料３について事務局より説明

（審議）

会 長： 今の説明について何か質問等はございませんか。

委 員： 印象からすると前回より形はかなり整ってきたのではないのでしょうか。ただ、まちづくりの課題認識（７つ）の言い方ですが、方針や目標分野のようになっています。もっとそうした中で何をやりたいのか、その後につながる目標や取り組みとの整合のためにも、はっきりしておく必要があるでしょう。

あと、すべてのことを考えるとき、常に森町らしさというものを念頭に置いていただきたい。例えば以前「ヤマハ」らしさということを知ったことがあります。それは、新しいことにチャレンジする、専門性を極める、それと、クール（格好良さ）というものだそうです。森町にも、歴史性や山紫水明といった守らなければならないもの、産業面においても、何においても、何処に森町らしさを置くか、簡単に答えは出ないでしょうが、常に問うていく姿勢でいかないとよいものは出てこないと思います。基本的なところは良く考えられて、つくられてきているとは思いますが。最後に言葉の出し方として色々あるのだと思います。遠州の小京都の話であるとか。その辺も使いながら、やっていっていただきたい。

委 員： 森町の将来人口というのが、２０６０年で１万３千人ということになっているのでしょうか。人口減少にどこかで歯止めをかけていくことで、せめて横ばいにするとか、減少に向

かう計画のことを議論するのには何か寂しさを感じます。もう少し20年先には森町が少し活きてくるようなものにしたいという思いです。

会 長： その思いは皆さんにも十分届いているでしょう。

委 員： 森町の人口として一体何人を目指すのか、例えば2万人ということなら、あと2千人外部から呼び込む必要があります。例えばお祭りの好きな方、全国で集めてみたら、そのくらいはいらっしゃるかもしれません。ハードルはあるが、そういう目標を立てたほうが動きやすくなるのではないのでしょうか。計画ですから。

委 員： いずれにしても目標値というものがありません。これらの書いてあることは今後の成り行き任せになるのか、目標があって現状とのギャップを埋めるためのプランがこの第9次計画なのではないのでしょうか。10年後に結果の検証もしずらいと思います。

委 員： 実は、こうした推計を全国市町村で行っている国の社人研値というのがあって、その推計では森町の将来人口はさらにもっと下がってくということになっているでしょう。例えば人口が減少していったとしても、袋井から森へ人を呼び込んでお金を使ってもらう仕組みを考えると、直虎の風（ブーム）を利用して天浜線の利用を即して人を呼び込むとか、お金を掛けずにできることもあるでしょう。人口そのものを増やす鉄板のやり方として言われているのは、子育て支援施策の充実ですが、考える全てを充実させることもできませんので、何か一つでも特化させてイメージをつくることもできるでしょう。もう一つは都市計画のまちづくりです。袋井市のエコパのような開発のことです。しかし新しい駅を作って周りも開発するなどというのはなかなか大変なことですが、若い人に対して、自身の未来のライフスタイルが見えると来てもらえることに繋がります。

森町は知れば知るほど魅力が高いまちで、日本における数少ない本物の小京都といえる町だと思っています。最初から衰退していく計画というのもご意見ですが、国の推計はさらにもっと厳しいものです。そういった面でこれだけは負けない、ということを含めて協力してですね、思うに森町の最大の魅力は、職員だけではなく、町ぐるみで色んなものに力を出せること、私が見させてもらっている7市1町でも非常に強いところだと思います。ただし現実というのはさらにもっと厳しいということは直視していかなくてはなりません。減少に歯止めをかけるだけでも日本全体で厳しいことだということです。

会 長： 自治体同士がそれぞれ競争相手となるわけですから、厳しいと思います。その点、これからの問題として考えていただきたいということですね。

委 員： 基本の柱⑤安心・安全の2つ目、災害に強い地域防災力の高いまちをつくとあるのですが、これから第9次計画に書くこと考えなくとも、今すぐできることがあります。現在防災無線が1件にひとつ配備されていますが、台風情報といったものが発信されていません。そういうことはすぐにやっていただきたいと思います。

- 会 長： 防災情報無線は使ってもいいのでしょうか。すぐにでも取り組んでもらいたいところです。
- 事務局： そうですね。
- 委 員： 森町は先月から今月にかけて36人位減少しています、しかし、浜松市、磐田市、袋井市は着実に人口が増加しています。それは、10年前からの取り組みというものが、いま活きているということだと思います。森町でもぜひそうした先進的な取り組みを勉強し、参考にさせていただきたいと思います。
- 委 員： 円田でも家を建てたいと思ってきたけれども、それは駄目だということになって、袋井市のほうへ行かれた例がありました。森町で、特に娘さんなんかは、手伝ってあげて2人で働けば、子育てもできるのに、近くに建てられないから出ていってしまうという構図があるのではないのでしょうか。子供の医療費の無料化など、森町は子育てするのにいいまちだというPRをもっとするべきだと思います。昔は近くに公園もあったのですが、最近は危ないというので使えなくなっています。もっと若い人が住みやすくなるように、みんなで力をあわせてといいますかね。今ふるさと納税、森町は1万円からだったのでしょうか。遠鉄百貨店のちらしを見ていたら「菊川市」の宣伝入っていましたが、こういった方法も参考になるのではないのでしょうか。
- 会 長： そちらの道の専門家がいらっしゃいますので、よく話して勉強して頂いて、また当局と色々話しを進めて頂ければと思います。
- 委 員： 基本の柱として、(ひとを育む)というのが上から2つ続いているのは、こういうことを大事にするという姿勢の表れだと思います。第8次計画のパンフレットに使われている写真の80%以上に人物が写っています。森町はひとを大事にしているまちだと、これは非常に喜ばしいと思います。さらには、「人づくりは100年の計」とも言われますが、100年と言わなくても、50年、60年後を見据えて、将来に活躍できる人の育成、教育文化の醸成を大事にしていくといった、大きな意味、「人づくり」という大きな方針が最初にあると、もっと分かりやすくなると思いました。
- 会 長： 貴重なご意見ですので、是非この中に入れていただきたいと思います。
- 委 員： これから人口増加を目指すということは、やはり奪い合いをするということにもなります。こうした政策を打つには開発もともなうものですが、それは現在の美しい風景を守るか、新しい家を建てた故に景観を壊すことにもなるという、拮抗するところが出てくるので、考えていただく必要があると思います。
- 会 長： それでは、予定時間を相当超過しております。最後の議事(4)に入りたいと思います。

(4) その他

- ・事務局より報告事項
- ・森町への移住定住をPRするパンフレットを作成。東京都内への配布のほか、森町内企業への配布を予定
- ・次回日程については11月24日から12月5日の期間で各委員のご都合で調整

6 閉会

以上